

2014年9月8日から12日にかけて太平洋経済協力会議（Pacific Economic Cooperation Council, PECC）の青年使節団の一員として北京へ渡航した。北京では PECC の常任委員会会議や総会を聴講する機会を得たと共に、他の青年代表と「越境教育の在り方」についての議論を重ね、その共通の成果を常任委員会会議で報告するに至った。非常に短い滞在で、議論を重ねる時間も限られていたが、特に以下の点が北京滞在を有意義なものになったことに寄与した。

まず、今回の PECC 開催場所が北京ということもあり、合計 40 名の青年代表の内 18 名は中国各地からの参加であった。しかし、残りは各 PECC 加盟国からの代表者であり、小グループに分かれて議論を重ねた際は、バランスの取れた構成となっていた。異なるバックグラウンド、専攻、学歴・職歴を有するグループがアドホックで構成され、その多様性の故なかなか共通の結果を導くことができなかったが、共通の目的というものはシェアされていたため、何とか最終的には共通の結果をまとめ上げることができた。多様性あふれるアジア太平洋地域における議論の困難さを、ほんの数日の滞在及び議論で痛感した次第である。互いに共通の目的やゴールを有しているが、そこまでの道のり、或いは手順等は各々に異なり、最低限のコンセンサスを得るにも多大な困難さが伴うことを肌を感じることもできた。

また、青年代表団の一員として、PECC の常任委員会会議や総会を聴講する機会を得たことは有意義であった。日常から書物等を通じて研究成果等は読んでいるが、今回はアジア太平洋地域でホットなトピックを集中的に聴講することができた。各加盟国の研究者や研究機関の研究内容の他、各研究者や実務者がどのような視点で研究を進め、またそれをどのように国際会議で報告するかを観察することができ、私自身の今後の研究に参考になるものが多く、非常に役立つものであった。途中でテーマごとの分科会に分かれたため全てのパネル討論に参加することができなかったが、他の青年を通じて情報を交換し、幅広い最先端の研究報告を知ることができた。分科会のテーマはエネルギー問題からグローバル・バリュー・チェーン、アジア太平洋地域における中国の役割から都市化と都市の持続的発展までと多岐にわたり、いずれもアジア太平洋地域が直面しているホットなテーマが取り上げられた。各報告者とは休憩時間中に話すことができ、報告についての疑問点を直接問うことができ、また、率直に意見を交換することもできた。

青年代表の活動は実質 3 日間であったが、いずれの日も朝から晩まで会議や議論漬けであった。しかし、これらに参加することを通じて、書物等で養った知見の上に更なる情報を上乘せすることができ、非常に有意義なプログラムに参加することができたと実感している。今後もアジア太平洋地域を中心にあらゆる地域のホットテーマを追い、近い将来に今度は報告者としてこれらの会議に参加するよう努める次第である。